

令和3年度静岡市協働パイロット事業 企画提案書

団体名:NPO 法人アートコネクトしずおか

1 事業のタイトル

コロナ禍で寂しさや退屈を抱える病や障害のある子供たちへ芸術を届けるプロジェクト

2 事業の概要 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえて記載してください。)

- ・病(障害)と闘う子どもたちへ安らぎと楽しい時間を提供
- ・経験と実績のあるプロの芸術家、パフォーマーを伴い病院や施設を訪問し、身近な場所で芸術披露とパフォーマンスで子どもたちの寂しさや退屈を癒し、笑顔を創出する芸術コミュニケーションプロジェクト

開催予定回数:4回を予定

【想定される現状】

静岡市には多くの障害児を受け入れる支援施設や放課後デイサービス等の預かり施設、病気の子供を受け入れる病院施設があるが、コロナ禍により子供たちの楽しめる活動は制限され、孤立化し、寂しさや退屈を抱えている傾向があります。

楽しみにしていたイベントは中止になり、面会も外出も制限されて会いたい人には会えず病室や施設内にいる時間が多くなり、心が疲弊していることも多い。

遊びたい盛り、好奇心旺盛な子どもたちの日常を思うにつれ、大人でも不安に押しつぶされそうな毎日。彼らを楽ませ不安と苦しい治療の日常の中に少しでも楽しい時間を提供できないかと考えました。

実際、学校に行けない入院や施設にいることを余儀なくされた子どもたちは、治療が終わると多くの時間を退屈に過ごしていることも多く、付き添う母親や家族も困惑し、疲弊しているケースがあります。

【活動の目的】

そんな寂しく辛い日々にも光をともらいたい。治療や境遇を前向きにとらえ、日々の(入院)生活に楽しみと癒しと活力、夢を提供するきっかけをつくりたい。

コロナ禍における子どもたちの問題に向き合い、専門の技術を持つ静岡の芸術家と共に応援する活動を協力してすすめていくことで、疲弊する子どもたち、普段からそれを支える家族・施設(病院)職員やコミュニティを応援(支援)し、双方の繋がりをつくるきっかけとなる活動としたい。

コロナ禍で「参加者を会場に集めて開催」することが難しい現在においては、施設(病院)へコロナウイルス感染防止対策を施した芸術家を出張訪問させ、子供たちのすぐそばで芸術を披露。子どもたちに普段なかなか味わえないプロの芸術家たちとの身近なふれあいや、感動と体験、楽しい時間を届ける活動とする。

【芸術イベント内容】

- 大道芸人・パフォーマーによるパフォーマンス
- 音楽家によるミニコンサート
- 演劇役者によるミニ演劇
- アート作家によるお絵かきワークショップ 等

出張依頼先(施設や病院側)との話し合いにより決定し実行する。

【期待できる成果】

子供たちに楽しい時間を提供することでコロナ禍においても前向きに毎日を過ごす活力を回復させてもらえる手助けになる。

芸術家を身近に感じ、それまでにない新たな接点として芸術との繋がりが創出され、施設や病院側にも積極的な芸術活用の意識が生まれることが期待できる。

原則として「プロの芸術家」を起用し接してもらうことで、子どもたちに夢と希望を持ってもらえたらと考えています。

また、芸術家側もそれまでに無かった子供たちのコロナ禍における現状への問題意識が生まれ、今後の活動へのステップとなり、芸術～福祉～子供の育成が連携していく足掛かりになることが期待できます。

又、出張して「芸術を届ける」という観点から考えても、施設(病院)側と芸術家との接点が生まれることで、芸術意識の向上や積極的な芸術活用の機会が創出されることも期待できると考えます。

【活動における課題点】

コロナ禍で障害者施設や病院の状況が刻々と変化する中での開催となることが予想されますが、従来からの活動により病院や障害者施設とのやり取りの実績があるため、担当者との具体的なやり取りで病院ロビーや待合室、多目的室等、コロナ対策を病院側と十分協議した上実行できると考えています。

場合によりコロナ禍での開催影響を受けにくい病院・医療施設、障害者施設、放課後デイ等を設定し、状況に柔軟に対応して活動を持続していけることを最優先に考えていきます。

【対象者】

病(障害)と闘う子どもたち(病院や施設に入院中の子どもたち。特に幼児～小学校高学年まで)

子どもたちの保護者(場合により児童養護施設)

施設や病院スタッフなど

【実施対象施設(病院)】

こども入院患者の多い静岡市内の病院又は障害者受入れ施設

1. 静岡済生会総合病院(連携実績有)
2. 静岡県立子ども病院(実績有)
3. 静岡てんかん神経医療センター(実績有)

4. 静岡医療福祉センター(児童部)(実績有)
5. その他県内回復期病院等
6. 静岡市内の障害者施設
7. こども対象とした放課後デイ等通所施設

【内容】

それぞれの病院の特性に合わせた子どもたちと楽しめるイベントを企画
(見せるのみの一方的な演出ではなく対話型イベント)

1. 音楽会(ミニコンサート)
2. 演劇やリズム、ダンス、踊り等
3. アート・絵画ワークショップ
4. 大道芸・パフォーマンス(手品等も含む)

【時間】

2時間程度(病院・施設側の要望により対応する)

【開催予定回数】

合計4回 開催(病院・施設側の要望を優先し開催日程を設定)

【運営体制】

1. 運営・進行者/NPOより2名
2. パフォーマーや芸術家等1回開催毎に1~3名程度(予算による)
3. 事務経理要員/1名

団体名:NPO 法人アートコネクトしずおか

3 協働して事業を行う際、貴団体の担う役割と静岡市に担って欲しい役割

【アートコネクトしずおか】

- ① 事業所・病院への募集呼びかけ
事業所・病院との折衝 事業所・病院の選定
- ② 開催内容打ち合わせ・内容の確認と企画設定

- ③ アーティストの選定
- ④ アーティストとの打合せ・日程調整・内容設定
- ⑤ 開催当日の進行と運営(開催事業所・病院にて)

【文化振興課】

- ① 芸術家情報の情報提供と共有
- ② 芸術企画内容の確認・アドバイス等
- ③ 芸術関係の人脈や制度等関連情報の提供と共有
- ④ 文化振興機関とのマッチング等

【障害者支援推進課・障害者福祉企画課】

- ① 静岡市内の事業所の情報提供
- ② 静岡市内の事業所への企画周知
- ③ 事業者の募集と応募のとりまとめ

団体名:NPO 法人アートコネクつずおか

4 事業計画・実施スケジュール

- 1. 静岡市協働課との連携により対象施設(病院)の情報共有、開催施設の選定や内容を打合せ
- 2. 静岡市協働課との連携により対象施設の設定・募集や告知・事業説明等
- 3. 開催施設(病院)の決定
- 4. 実施施設(病院)との打ち合わせ 静岡市協働課との連携により開催日程・開催内容の決定
- 5. 担当アーティストの決定(オファー)(静岡市協働課との連携)
- 6. パフォーマンス・ワークショップ開催
- 7. 報告書等提出

出来れば活動の様様を TV、新聞等メディアに取上げていただき、広くアピールできたらと考えています。
※プライバシーを最大限厳守すること前提(施設・病院側の意向に沿う)

令和3年6月下旬 委託契約締結

7月中旬対象施設(病院)の情報共有、開催施設の選定や内容を打合せ実施

8月静岡市協働課との連携により対象施設の設定・募集や告知・事業説明実施～決定

9月上～中旬 第1回目イベントの開催

10月上旬 第2回目イベントの開催

10月下旬 第3回目イベントの開催

11月中～下旬 第4回目イベントの開催

※できればインフルエンザや感染症が蔓延し始める前に完了させたい(あくまでも病院や施設の希望を優先して日時を設定する。場合によっては感染症終息予想の来年2月中旬以降も視野)

3月 業務完了の報告

団体名:NPO 法人アートコネクつずおか

5 実施体制及び主要スタッフの経歴

【全体の統括】

遠藤 次朗

広告デザイナー、専門学校講師、障がい者B型事業所授産製品アートディレクター、県広報委員会講師 静岡市文化振興委員

【運営】

猿川 雄一 プロダクトデザイナー、専門学校・元大学講師

村松 伸明 デザイナー、NPO 法人 理事長、高等専修学校講師

保崎 一乃 デザイナー・イラストレーター

松尾 雪音 学芸員・デザイナー・NPO 法人理事

【会計】

遠藤 次男 税理士・監查理事

団体名:NPO 法人アートコネクつずおか

6 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績、2年間継続することの効果など）

NPO 法人アートコネクつずおかは、デザイン、アートに精通するスタッフを中心に運営されている法人です。音楽や舞台、パフォーマンスを専門とする各方面の現役のアーティストとの人脈もあり、今回の事業の対象事業所のニーズに応えることが可能です。

当法人は現在も障害者アートを中心とした支援活動を続けていり中で、コロナ禍において様々な現場の実態を目の当たりにしています。

スタッフはコロナ感染を食い止めるために日々全神経を注いでいます。故に病院においては面会が制限され、障害者事業所でも面会や楽しみにしているレクリエーションやイベントが中止または縮小し、外部とのコミュニケーションが著しく制限又は遮断されています。

病院や事業所は子どもたちや障害のある利用者の治療や介護・支援を優先して行っていますが、主業務が最

優先され、心のケアまで行き届いていないのが現状です。

本来であれば多くの友達と楽しく遊び、明るい笑顔と共に心を育む時期において、不慮の病や障害にさいなまれた上、このコロナ禍で更に制限された生活を無機質な空間でおくり、退屈で寂しい思いをしています。

そんな彼らの心に光を当てるために静岡県内のプロの芸術家を起用し、そうした困っている子どものもとへ「芸術を届ける」という発想と、子どもの心を癒し笑顔を創出し心を育むために「芸術を活かす」新たな手段として確立できたらと考えています。

未だ持続的にこうした子どもたちへ芸術を届ける活動をしている団体は少なく、今後コロナ禍の長期化が見込まれる中で子どもたちの心のケアを中心とした活動の発展が必要不可欠と考えています。

またこうした活動を持続させることによって市民への芸術の浸透と芸術の魅力発見が見込まれ、新たな芸術活用意識の向上が生まれることが期待できるのではないのでしょうか。

同時に、芸術家たちにも福祉や児童育成の観点への問題意識が生まれ、積極的な貢献意欲の向上につながる可能性も見込まれます。

アートコネクトしずおかはすでに、福祉に芸術を結び付けた活動実績がありますが、資金状況からその活動の回数は限られており、常に持続的な活動継続の必要性を感じてきました。

実際に芸術文化を送り届けた際の子どもたちの表情は明るく、そして驚きと感動に満ちていました。マッチングさせた芸術家たちもまた同時に子どもたちの笑顔に感動し、持続的な芸術提供の意欲に燃えていました。

しかし、活動回数を終わるとその年の活動は終了となり、まだまだ多くの事業所や病院で寂しさを抱え、悲しんでいる子どもたちへの支援活動は不十分なままとなってしまいます。

今後もこうした活動を継続するには、最終的には市民の方の理解と応援が必要不可欠ですが、まだまだ活動回数が未熟で市民の皆様を知っていただき応援されるに至っていないのが現状です。

活動を継続させて実績を重ね、子どもたちやその家族、病院や事業所、そして市民や地域企業に理解され応援されるようとにかく1回でも多く、そして1事業所でも多くの施設・病院に「芸術を届ける」活動を続けていけたらと思います。

まずはこのパイロット事業において2年の活動支援猶予を頂き、その期間内に次の目標として地元企業スポンサーと提携し自立して活動していけるよう準備を怠らず続けていきたいと考えています。